

市政記者各位

2026年5月20日
福岡市博物館

特別展「福岡市博物館収蔵 幽霊・妖怪画コレクション」開催！

この夏、ぜひ見ていただきたい展覧会です。

是非ご取材いただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

福岡市博物館には日本有数の幽霊・妖怪画のコレクションがあります。その中核をなすのは、日本画家で風俗史の研究者としても知られた吉川観方（よしかわ かんぼう 1894-1979）が収集した膨大な資料に含まれていた幽霊・妖怪画です。福岡市博物館は、このコレクションを収蔵したことをきっかけに、幽霊・妖怪画の充実をはかってきました。その中から、本展では、円山応挙の作と伝わる幽霊図をはじめ、伊藤若冲・河鍋暁斎らが江戸時代に描いた作品など、約100点を展示します。

幽霊や妖怪は、なぜ描かれ、飾られ、大切にされたのでしょうか？ 絵を描いた／みた／コレクションした先人たちの心にふれる展覧会です。絵のみならず、絵を彩る趣向を凝らした表具にもご注目ください。



↑百鬼夜行図巻（部分）／小方守房／江戸時代中期

化け物たちの行進、「百鬼夜行」。平安時代には百鬼夜行に出会うと病気や命までも落とすと恐れられたが、絵画化されると人気を博し、今では国内外に60点以上の図巻が確認される。この絵は、福岡藩の歴代御用絵師のなかでも屈指の実力者・小方守房（おがた もりふさ）が描いた。

▶幽霊図／伝 円山応挙／江戸時代中期

美しい幽霊図を世に広めた円山応挙の作と伝わるもの。表具には幽霊にあわせてスキと秋草があしらわれている。花びらが散らされた一文字（いちもんじ 絵の上下の帯状の部分）も含めて、すべて手書きによる描き表装（かきびょうそう）。





◆朝露・夕霧／吉川観方／昭和 23 年（1948）

朝の化粧をするお岩（右）と夕に蚊やり火をたくお菊（左）。幽霊・妖怪画をあつめた吉川観方が描いたもの。江戸時代の円山応挙にはじまる幽霊画の文化的な帰結点となる逸品。

▶付喪神図／伊藤若冲／江戸時代中期～後期

100 年を経た道具は化けて付喪神（つくもがみ）になるという。さまざまな付喪神が、ちいさな棗や茶筌が化ける瞬間を見守っているかのようだ。作者は伊藤若冲（いとう じゃくちゆう 1716-1800）。福岡市博物館の幽霊・妖怪画コレクションのなかでも人気の高い作品。



開催概要 会期：2026 年 7 月 19 日(日)～9 月 13 日(日)

場 所：福岡市博物館 特別展示室

時 間：9 時 30 分～17 時 30 分（入館は 17 時まで）

※ただし 7 月 24 日～8 月 23 日の金・土・日・祝日と 8 月 13 日（木）は、
トワイライトミュージアムとして 20 時まで（入館は 19 時 30 分まで）

休館日：月曜日 ※ただし 7 月 20 日(月・祝)は開館し、7 月 21 日(火)は休館

観覧料：一般 1500 円（1300 円）高大生 800 円（600 円）

中学生以下無料 （ ）内は前売、20 名以上の団体料金

■お問い合わせ先 福岡市博物館 学芸課…杉山・佐々木 TEL 092-845-5011 FAX 092-845-5019